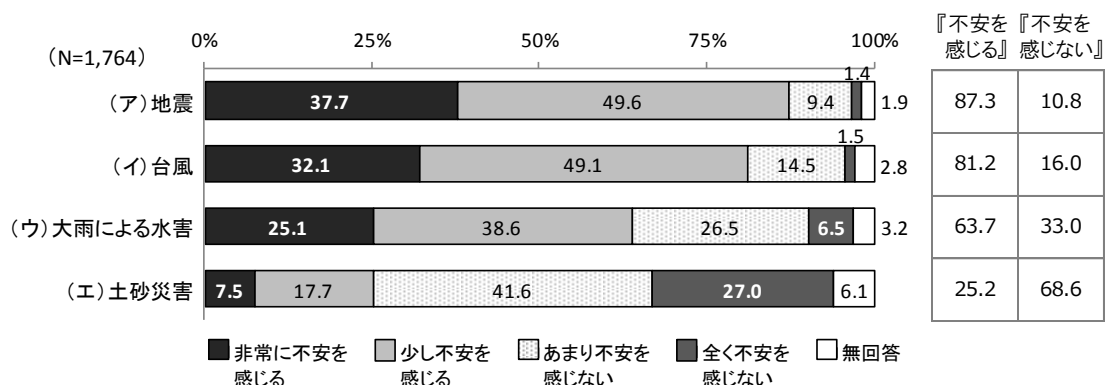


## 第3章 防災対策

### 3-1 災害への不安感

「地震」と「台風」への不安を感じる人が8割を超えている。  
 「大雨による水害」と「土砂災害」への不安を感じる割合は地域差が大きい。

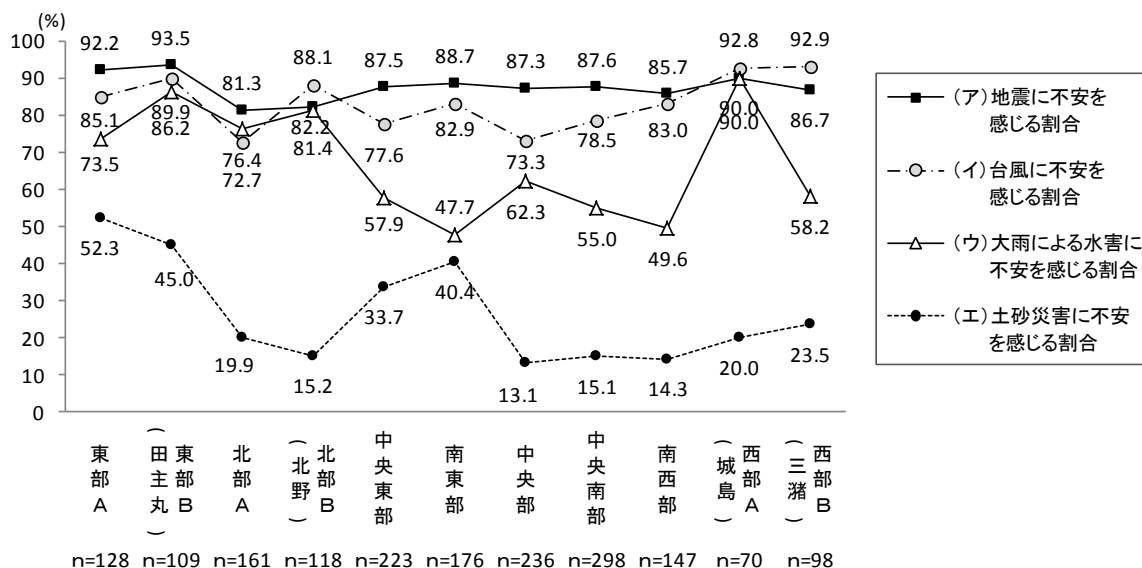
問 14 あなたは、お住まいの地域で、次の（ア）～（エ）の災害にあうかもしれないという不安を感じますか。（あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○印）



■図3-1 ブロック別にみた災害への不安感

◇大雨による水害への不安感は地域による差が大きく、筑後川流域である西部Aで9割、東部Bと北部Bで8割台と高く、南東部、南西部で低い。

◇土砂災害への不安感は、耳納山麓の東部A、東部B、南東部で高い。



#### ◆属性別特徴

【性別】女性は、いずれの項目でも『不安を感じる』が男性より高い。

【年齢別】年齢が上がるほど（イ）台風に「非常に不安を感じる」が高くなり、70歳以上では4割に達している。20・30歳代では（ウ）大雨による水害や（エ）土砂災害に『不安を感じる』が他の年齢層よりやや高い。

【同居家族別】小学生以下の子どもがいる世帯で（ウ）大雨による災害、75歳以上の方がいる世帯で（イ）台風それぞれ「非常に不安を感じる」が他の世帯より高い。

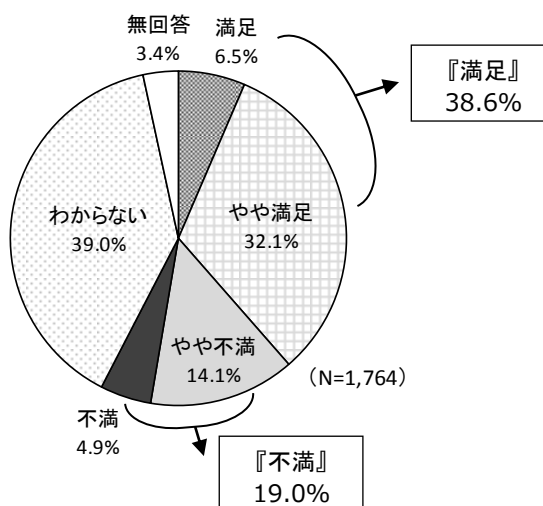


### 3-2 防災対策について

#### (1) 防災対策の満足度

久留米市の防災対策への取組みに満足している人は38.6%。

問 10 (オ) 久留米市では、市民のニーズを的確に把握し政策へと反映させるまちづくりを進めています。あなたは、防災対策への取組みにどの程度満足していますか。(あてはまる番号に1つだけ○印)



#### ◆属性別特徴

【性別】男性は『満足』が女性よりやや高い。女性は「わからない」が男性より高い。

【年齢別】30歳代で『満足』が43.1%と最も高く、60歳代で35.5%と低い。いずれの年代も「わからない」が最も高い。

【ブロック別】北部B、南東部で『満足』が5割弱と他の地域より高く、西部Aでは22.9%と低くなっている。

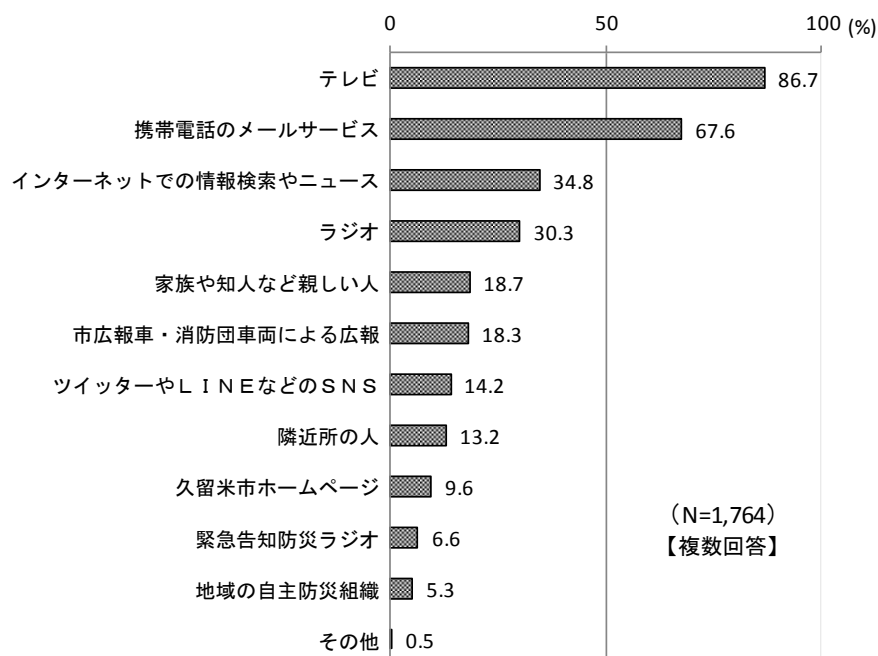
【同居家族別】小学生がいる世帯で『満足』が5割を超えて高い。

	標本数 (票)	防災対策に対する満足度 (%)							
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答	『満足』	『不満』
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,764)	6.5 ( 114)	32.1 ( 566)	14.1 ( 249)	4.9 ( 87)	39.0 ( 688)	3.4 ( 60)	38.6 ( 680)	19.0 ( 336)
性別									
男性	829	6.6	33.1	15.6	5.7	36.6	2.5	39.7	21.3
女性	935	6.3	31.2	12.8	4.3	41.2	4.2	37.5	17.1
年齢別									
20歳代	182	6.0	32.4	13.2	2.2	43.4	2.7	38.4	15.4
30歳代	281	5.0	38.1	12.5	4.6	38.4	1.4	43.1	17.1
40歳代	317	6.0	34.1	16.7	4.4	38.2	0.6	40.1	21.1
50歳代	290	6.2	30.3	13.8	6.2	41.4	2.1	36.5	20.0
60歳代	439	6.6	28.9	13.9	6.4	38.3	5.9	35.5	20.3
70歳以上	255	9.0	30.2	14.1	3.9	36.1	6.7	39.2	18.0
ブロック別									
東部A	128	7.0	28.9	10.9	8.6	42.2	2.3	35.9	19.5
東部B(田主丸)	109	7.3	33.0	22.9	7.3	27.5	1.8	40.3	30.2
北部A	161	3.1	31.1	13.7	7.5	41.6	3.1	34.2	21.2
北部B(北野)	118	5.1	41.5	11.0	1.7	37.3	3.4	46.6	12.7
中央東部	223	4.9	32.7	14.3	3.6	40.8	3.6	37.6	17.9
南東部	176	11.4	36.4	11.9	5.1	30.1	5.1	47.8	17.0
中央部	236	8.5	28.8	11.0	4.7	43.2	3.8	37.3	15.7
中央南部	298	5.7	29.2	14.4	3.4	44.0	3.4	34.9	17.8
南西部	147	8.2	34.0	15.0	3.4	36.7	2.7	42.2	18.4
西部A(城島)	70	4.3	18.6	28.6	7.1	38.6	2.9	22.9	35.7
西部B(三瀬)	98	3.1	39.8	11.2	6.1	35.7	4.1	42.9	17.3
同居家族別									
世帯の中に就学前の子どもがいる	251	4.8	39.4	13.5	4.4	35.9	2.0	44.2	17.9
世帯の中に小学生がいる	240	5.8	44.6	14.6	3.8	29.2	2.1	50.4	18.4
世帯の中に中学生がいる	136	6.6	33.1	16.2	0.7	40.4	2.9	39.7	16.9
世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	168	4.2	26.8	16.7	3.0	46.4	3.0	31.0	19.7
世帯の中に65～74歳の方がいる	601	7.0	28.8	14.6	5.2	38.9	5.5	35.8	19.8
世帯の中に75歳以上の方がいる	382	7.3	30.1	15.2	5.8	36.6	5.0	37.4	21.0
以上にあてはまる人はいない	500	5.6	32.0	13.6	5.8	41.0	2.0	37.6	19.4
無回答	10	-	50.0	10.0	-	40.0	-	50.0	10.0

(2) 緊急時における防災情報の入手方法

緊急時の防災情報入手方法はテレビが86.7%。

問 17 あなたは、台風・大雨や地震などの緊急時に防災情報をどのような方法で入手しようと思いますか。(あてはまる番号にいくつでも○印)



◆属性別特徴

【性別】男性は「インターネットでの情報検索やニュース」「ラジオ」などが女性より高く、女性は「家族や知人など親しい人」「隣近所の人」などが男性より高くなっている。

【年齢別】年齢が上がるほど「テレビ」「ラジオ」「市広報車・消防団車両による広報」が高くなる傾向にあり、年齢が下がるほど「インターネットでの情報検索やニュース」「ツイッターやLINEなどのSNS」が高くなる傾向にある。40～60歳代は「携帯電話のメールサービス」が他の年齢層より高い。

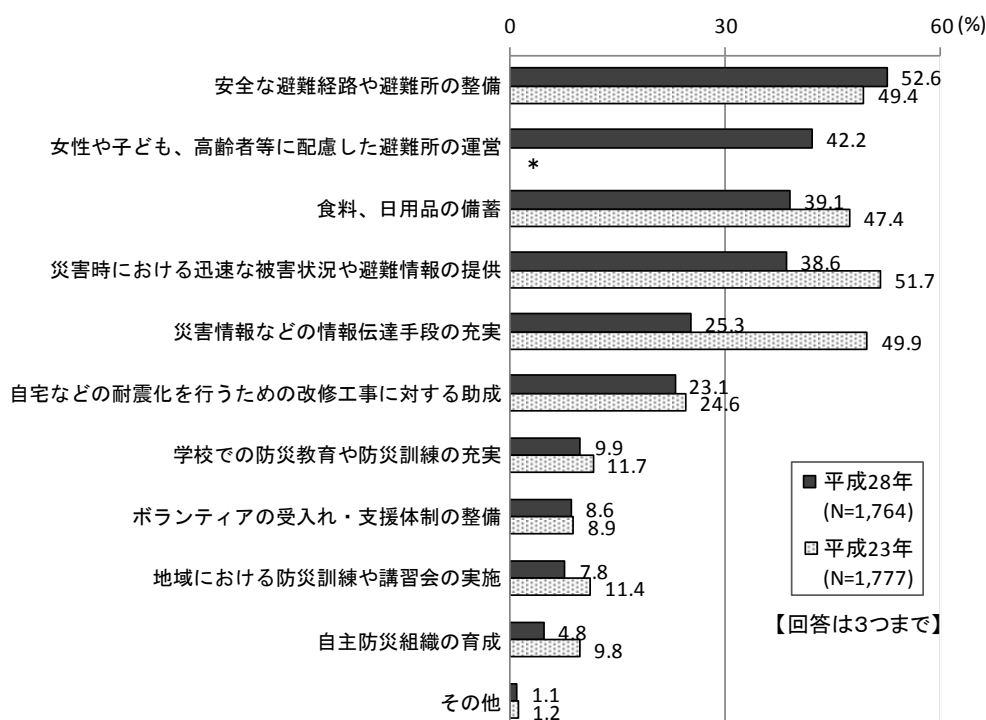
【ブロック別】西部Aは「市広報車・消防団車両による広報」「隣近所の人」「地域の自主防災組織」が他の地域より高い。また、北部Aは「インターネットでの情報検索やニュース」、東部Bは「ラジオ」がそれぞれ4割と他の地域より高い。

	標本数 (票)	緊急時の防災情報の入手方法 (%)																
		テレビ	ラジオ	緊急告知 防災ラジ オ	ソ ロ の 情 報 検 査	イン タ ー ネ ッ ト	ス マ ー ト フ ォ ン	携 帯 電 話	の L I N E な ど	ツ イ ッ タ ー な ど	ム ベ ー ジ ホ ー ム	久 留 米 市 ホ ー ム	防 災 報 告 車 両 に よ る	市 広 報 車 に よ る	親 族 し や 知 人 な ど	隣 近 所 の 人	災 域 の 自 主 防 衛 組 織	そ の 他
全 体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,764)	86.7 (1,529)	30.3 ( 535)	6.6 ( 116)	34.8 ( 614)	67.6 (1,192)	14.2 ( 250)	9.6 ( 169)	18.3 ( 323)	18.7 ( 330)	13.2 ( 233)	5.3 ( 93)	0.5 ( 8)	0.5 ( 9)				
性別																		
男性	829	86.6	33.9	7.1	38.4	65.4	12.9	8.2	18.0	14.5	10.3	5.3	0.6	0.2				
女性	935	86.7	27.2	6.1	31.7	69.5	15.3	10.8	18.6	22.5	15.8	5.2	0.3	0.7				
年齢別																		
20歳代	182	76.9	19.2	3.3	58.8	61.5	47.3	11.0	5.5	20.3	5.5	2.2	1.1	-				
30歳代	281	79.7	26.0	5.7	60.1	64.4	22.1	15.3	9.6	21.0	13.2	2.5	0.4	0.4				
40歳代	317	87.4	27.1	2.8	47.6	74.8	16.7	14.2	10.4	17.4	9.8	2.5	-	0.9				
50歳代	290	87.6	31.7	4.5	34.5	73.8	11.0	10.3	19.3	16.6	7.9	4.8	0.3	-				
60歳代	439	90.7	36.9	8.2	15.3	72.2	3.4	3.2	25.3	16.6	14.4	5.9	0.2	0.2				
70歳以上	255	92.5	34.1	14.1	7.8	51.4	0.8	6.7	33.7	22.7	27.1	13.3	1.2	1.6				
ブロック別																		
東部A	128	82.8	32.8	7.8	28.1	71.1	19.5	7.0	10.9	20.3	10.2	3.9	-	0.8				
東部B(田主丸)	109	83.5	40.4	7.3	32.1	68.8	9.2	2.8	21.1	21.1	21.1	11.0	1.8	1.8				
北部A	161	84.5	28.6	8.7	41.0	64.6	17.4	14.9	16.8	16.8	9.3	5.6	-	0.6				
北部B(北野)	118	88.1	36.4	7.6	36.4	70.3	8.5	5.9	22.9	21.2	15.3	9.3	0.8	-				
中央東部	223	87.0	30.5	7.6	35.9	69.5	13.9	10.8	15.7	14.8	13.5	4.5	-	0.4				
南東部	176	87.5	34.7	4.0	35.2	61.4	13.1	10.8	17.6	18.8	12.5	4.5	-	1.1				
中央部	236	83.1	23.7	6.4	39.4	66.5	16.9	8.1	17.4	20.3	12.3	3.0	0.4	-				
中央南部	298	87.6	24.8	7.0	33.2	67.4	13.4	11.4	15.1	20.8	14.1	4.4	0.7	0.3				
南西部	147	92.5	33.3	4.1	34.0	77.6	16.3	13.6	18.4	18.4	6.8	4.1	1.4	-				
西部A(城島)	70	85.7	38.6	5.7	24.3	70.0	15.7	8.6	42.9	20.0	27.1	12.9	-	-				
西部B(三潁)	98	92.9	25.5	5.1	33.7	56.1	8.2	4.1	23.5	12.2	12.2	3.1	-	1.0				

(3) 久留米市が力を入れるべき防災対策

「安全な避難経路や避難所の整備」が5割を超えて1位。

問 18 今後、久留米市が防災対策を進める上で、特に力を入れるべきだと思うことは何ですか。次の中から3つまで（2つ以内でもかまいません）選び、番号に○印をつけてください。



\*は平成23年調査にはない項目。

◆属性別特徴

- 【性別】 女性は「女性や子ども、高齢者等に配慮した避難所の運営」が男性より7.6ポイント高い。
- 【性別・年齢別】 50歳代男性と50・60歳代女性では「迅速な被害状況や避難情報の提供」、女性の20・30歳代と70歳以上男女では「女性や子ども、高齢者等に配慮した避難所の運営」が他の年齢層より高い。男女とも年齢が下がるほど「食料、日用品の備蓄」「自宅の改修工事に対する助成」などが高くなる傾向にある。
- 【ブロック別】 東部A、中央東部では「女性や子ども、高齢者等に配慮した避難所の運営」、中央東部、南東部、中央部、南西部では「食料、日用品の備蓄」が他の地域と比べて高い。
- 【同居家族別】 小学生以下の子どもがいる世帯では「食料、日用品の備蓄」、小学生がいる世帯と中学生がいる世帯では「学校での防災教育や防災訓練の充実」、65～74歳の方がいる世帯では「迅速な被害状況や非難情報の提供」、就学前の子どもがいる世帯と75歳以上の方がいる世帯で「女性や子ども、高齢者等に配慮した避難所の運営」が他の世帯と比べて高い。

		標本数 (票)	久留米市が防災対策を進める上で力を入れるべきこと (%)																
			難安 所の 整備	安全 な避 難経 路や 避	所 の運 営	者 等に 配慮 した 避難 年齢	食料 、日 用品 の備 蓄	伝 達手 段の 充実	災 害情 報な どの 情報	報 の提 供	災 害時 にお ける 避難 迅速	練 や講 習会 の実 施	地 域に おけ る防 災訓 練	防 災訓 練の 充実	学 校で の防 災教 育や	自 主防 災組 織の 育成	れ ・支 援体 制の 整備	ボ ラン ティア の受 入	に 対す る助 成
全体 (カッコ内は標本数)		100.0 (1,764)	52.6 ( 927)	42.2 ( 745)	39.1 ( 689)	25.3 ( 447)	38.6 ( 681)	7.8 ( 138)	9.9 ( 174)	4.8 ( 85)	8.6 ( 151)	23.1 ( 408)	1.1 ( 19)	1.6 ( 28)					
性別	男性	829	53.7	38.2	38.1	26.9	36.6	8.2	9.7	5.7	8.8	24.2	1.6	1.3					
	女性	935	51.6	45.8	39.9	24.0	40.4	7.5	10.1	4.1	8.3	22.1	0.6	1.8					
性別 × 年 齢 別	男性:20歳代	89	46.1	25.8	50.6	21.3	37.1	4.5	7.9	4.5	14.6	29.2	2.2	-					
	男性:30歳代	148	58.8	33.8	43.2	21.6	30.4	7.4	12.8	2.0	10.8	28.4	1.4	1.4					
	男性:40歳代	143	53.8	35.0	38.5	29.4	39.2	4.2	10.5	2.1	10.5	28.0	1.4	2.1					
	男性:50歳代	113	59.3	44.2	30.1	22.1	46.0	8.0	10.6	5.3	6.2	22.1	4.4	0.9					
	男性:60歳代	216	52.3	38.9	33.8	31.9	37.0	9.3	7.4	8.8	8.3	23.1	0.5	0.9					
	男性:70歳以上	120	50.0	50.0	37.5	30.0	30.8	15.0	9.2	10.0	3.3	15.0	0.8	2.5					
	女性:20歳代	93	48.4	48.4	41.9	17.2	34.4	4.3	14.0	3.2	14.0	32.3	1.1	2.2					
	女性:30歳代	133	43.6	51.1	46.6	22.6	39.1	5.3	12.8	2.3	11.3	24.8	0.8	0.8					
	女性:40歳代	174	48.3	39.7	43.1	24.1	37.9	7.5	13.8	1.7	14.4	27.0	0.6	2.3					
	女性:50歳代	177	55.9	41.8	41.8	27.1	43.5	8.5	9.6	5.1	5.6	22.6	0.6	0.6					
女性:60歳代	223	57.0	44.4	37.7	29.1	47.5	7.6	6.3	5.8	3.1	13.0	-	2.7						
女性:70歳以上	135	51.1	54.1	28.9	17.0	33.3	10.4	6.7	5.2	5.9	20.7	1.5	2.2						
ブ ロ ッ ク 別	東部A	128	53.1	49.2	38.3	21.1	38.3	11.7	7.8	2.3	9.4	29.7	-	0.8					
	東部B(田主丸)	109	52.3	42.2	33.0	22.0	33.9	9.2	17.4	4.6	9.2	23.9	-	3.7					
	北部A	161	53.4	45.3	35.4	26.1	43.5	8.1	7.5	6.2	8.1	17.4	1.2	1.2					
	北部B(北野)	118	55.1	33.9	39.0	28.8	37.3	6.8	7.6	5.1	6.8	24.6	1.7	0.8					
	中央東部	223	51.6	47.1	42.6	25.1	43.9	6.7	8.5	6.3	10.3	18.8	2.2	2.2					
	南東部	176	55.7	40.3	42.0	22.7	33.0	8.0	9.7	2.8	7.4	26.7	2.3	1.7					
	中央部	236	50.8	41.1	40.3	25.4	33.5	5.9	9.7	5.9	8.1	25.4	0.4	0.4					
	中央南部	298	51.3	43.0	36.2	27.9	40.3	8.4	10.4	4.7	8.7	20.5	1.3	2.0					
	南西部	147	52.4	42.2	46.3	23.1	40.8	9.5	10.9	4.8	8.2	22.4	0.7	-					
	西部A(城島)	70	55.7	38.6	35.7	24.3	42.9	2.9	4.3	4.3	8.6	27.1	-	2.9					
西部B(三瀬)	98	50.0	33.7	36.7	30.6	36.7	8.2	15.3	4.1	9.2	25.5	-	3.1						
同 居 家 族 別	世帯の中に就学前の子どもがいる	251	49.8	47.8	45.4	23.5	31.9	6.4	14.3	2.8	10.8	25.5	1.2	1.2					
	世帯の中に小学生がいる	240	53.8	45.8	44.6	20.8	26.7	4.6	23.3	1.3	11.3	31.3	1.3	1.3					
	世帯の中に中学生がいる	136	58.1	31.6	33.8	29.4	35.3	5.1	19.1	2.9	5.9	24.3	0.7	1.5					
	世帯の中に上記以外の18歳未満の子どもがいる	168	49.4	32.7	42.3	27.4	37.5	7.1	14.3	4.2	11.9	28.6	0.6	1.8					
	世帯の中に65～74歳の方がいる	601	51.1	42.8	36.8	27.0	41.4	9.2	8.7	5.0	7.0	18.3	0.5	1.8					
	世帯の中に75歳以上の方がいる	382	53.4	50.0	31.7	26.2	36.9	10.5	8.9	6.5	5.5	23.8	1.6	2.4					
	以上にあてはまる人はいない	500	54.8	39.6	41.4	24.2	42.6	6.4	6.4	4.6	9.2	23.8	1.2	1.2					
無回答	10	40.0	30.0	40.0	40.0	30.0	-	-	-	10.0	40.0	10.0	-						



## 考察 — 防災対策 —

### ●地域ごとに異なる防災ニーズにきめ細かく対応

平成 28 年は、4 月に熊本地震が発生、久留米市を含む筑後広域地域においても激しい揺れを観測し、実際に避難する事態も発生した。このことにより防災への関心が高まり、自己及び家族を守るための防災や、避難に直面した場合の状況について、自分事として現実的に考えるきっかけになった年ではないかと考える。

本調査では、「地震」「台風」「大雨による水害」「土砂災害」の 4 つの自然災害について「不安感」について尋ねている。この 4 つの災害のうち、最も不安との回答が多かったのは「地震」、次いで多かったのは「台風」、そして「大雨による水害」であった。「地震」が最も多かった理由は、本調査の実施時期が熊本地震発生直後であったことの影響も大きいと思うが、東日本大震災の記憶もあり、予期できない災害である地震に関しては、常に警戒が必要であるという認識が定着し、それが不安感として表れてきているとも言える。

「地震」以外の災害への不安は、地域での差が大きい。「大雨による水害」への不安感は、筑後川流域の地域が高く、南東部、南西部で低い。一方、「土砂災害」への不安感は、耳納山麓地域が高い。なかには、「地震」と同程度に「大雨による水害」への不安を感じる地域もあり、地震対策に多くの市民の関心が行く中、実際に災害にあう可能性が高い地域があること、そしてその地域に対しては手厚い防災対策が必要であることを、市民全体で再認識する必要があるのではないかと考える。

### ●防災対策の現状に関する情報発信の充実

自然災害の犠牲になりやすいのは、小さい子どもや高齢者など、体力や情報収集力の弱い方々である。

これらの層に関して同居家族別に防災対策への満足度をみると、就学前の子どもや小学生がいる世帯に関しては、他の世帯に比べ「わからない」の回答が少なく、満足度が高い傾向がみられる。一方で、高齢者がいる世帯では「わからない」の回答が多く、他の層に比べ、不満度がやや高い。小さな子どもがいる世帯は総じて若い年代が多く、デジタル機器やインターネットを通じた情報収集力があり、防災情報を瞬時に得る力が身につけているからではないかと考えられる。だが、小さな子どもがいない世帯では、高齢者がいる世帯を含め「わからない」が 4 割前後存在する。

防災対策の現状について、しっかり情報発信し、「満足」「不満」の判断ができる程度の防災知識を、最低でも身につけてもらえるような取り組みが必要ではないかと考える。

### ●今後は、発災後対策のさらなる充実へ

小さな子どもがいる層に、防災対策の現状に満足している人が多いことは先に述べた。しかしながら、この層は、発災後の対策に関して、女性や子ども、高齢者へのさらなる配慮など、先の地震等で浮き彫りになった避難所生活での現状の問題点に対する解決策を期待する気持ちが大きいようである。

「久留米市が防災対策を進めるうえで力を入れるべきこと」に関しては、「安全な避難経路や

避難所の整備」を求める人が最も多く、全体で 52.6%と 5 割を超えた。そして、次いで多かったのは「女性や子ども、高齢者等に配慮した避難所の運営」で 42.2%だった。双方とも発災後の対策である。

特に「女性や子ども、高齢者等に配慮した避難所の運営」においては、配慮を必要とする当事者である女性、小さな子どもがいる世帯、高齢者、高齢者のいる世帯で高くなっている。男性の若い層、小さな子どもがいない層との間に大きな意識の差がある。

配慮が必要な層が存在する事、その層に対してどのような配慮が必要であるかを広く認識する事、そして、避難所等の運営に関して、女性の意見や視点が反映できるような体制の検討が、今後はさらに求められる。

### ●自主防災組織の認知度向上と育成の促進

熊本震災後、久留米市からも多数の職員が現地で支援活動に従事した。その経験をもとに、よりきめ細やかな発災後対策が進んでいくと思われるが、市の職員や社会福祉協議会など、別の職務と並行して現場対策を進めていくのには限度がある。したがって、防災対策および発災後対策に関しては、自主防災組織等を通じた市民の参画が不可欠である。

だが、現状において自主防災組織を知っている市民の割合は、37.6%と 4 割弱程度にとどまっている。同組織の認知度をあげていくことが求められる。またさらに、自主防災組織の事を『知っている』と答えた人の中で、自主防災組織の育成に力を入れるべきと回答した人は、6.9%と低かった。これは「久留米市が防災対策を進めるうえで力を入れるべきこと」を 3 つまで選ぶ、という質問の結果であるので、もし、いくつでも選んで良い、という聞き方であれば、もう少し高く出ていたかもしれない。だが、自主防災組織の事を知らない人より、その育成の必要性に言及している人が多いのは明らかである。

自主防災組織の認知度を上げ、その育成を進めていくことは重要課題といえる。

■自主防災組織の認知別（2 区分）防災対策で久留米市が力を入れるべきこと

		(%)												
	標本数 (票)	整備 安全な 避難経路 や避難所 の	女性や 子ども、 高齢者 等に 配慮した 避難所 の運営	食料、 日用品 の備蓄	災害情報 などの 情報伝達 手段	災害時 に避難 おける 情報の 迅速な 被害 状況	地域 の実施 における 防災訓 練や講 習	学校 での防 災教育 や防災 訓練	自主 防災組 織の育 成	ボラン ティア の受入 れ・支 援体制 の整備	住宅 などの 耐震化 を行う 助成	その他	無 回答	
全体 (カッコ内は標本数)	100.0 (1,764)	52.6 ( 927)	42.2 ( 745)	39.1 ( 689)	25.3 ( 447)	38.6 ( 681)	7.8 ( 138)	9.9 ( 174)	4.8 ( 85)	8.6 ( 151)	23.1 ( 408)	1.1 ( 19)	1.6 ( 28)	
自主 防災 認知 別	知っている	37.6 ( 663)	56.0	44.5	36.8	25.9	40.6	10.0	9.8	6.9	7.7	21.0	1.2	1.8
	知らない	60.6 (1,069)	50.6	40.5	40.5	25.3	37.7	6.5	9.9	3.6	9.3	24.5	1.0	1.3
	無回答	1.8 ( 32)	46.9	53.1	37.5	15.6	28.1	6.3	9.4	-	3.1	21.9	-	6.3

(分析者 山下永子)